

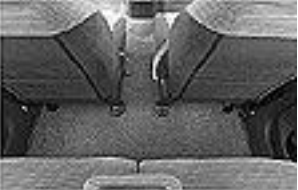


■ライバル車との寸法比較(編集部予想)

車名	MX-5	トヨタ・プリウス	三菱・ランサー	マツダ・プレマシー	日産・ブルーバード
全長	4550	4530	4480	4295	4545
全幅	1695	1695	1695	1695	1695
全高	1590	1620	1650	1570	1630
室内長	2610	2565	2435	2380	2620
室内幅	1440	1435	1420	1450	1470
室内高	1310	1220	1265	1245	1200
1列目ヘッドルーム	1045	990	1000	1020	1050
2列目ヘッドルーム	1015	1000	975	975	995
3列目ヘッドルーム	920	860	900	890	885
1-2列間幅	980	1010	1025	970	—
2-3列間幅	730	715	660	645	—
最小回転半径	5.3m	5.5m	5.2m	5.4m	5.3m

単位はすべてmm ※1は右側の数値

ライバル出し抜く
広さの秘密は
「革新ヒューマンパッケージ」



高い室内高とフラットなフロア、広い左右席間で、前後左右ワークスルーモラク。

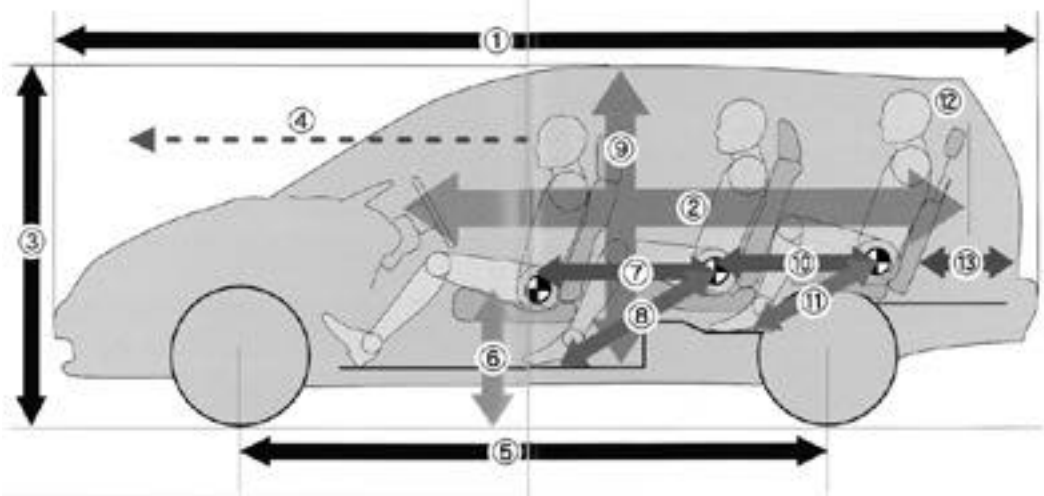


いままではオマケと思われていたサードシートにも、十分な居住空間を与えている。



サードシートをたたむと、フラットで大きな(前後長1060)荷室が出現する。

●データで見る“ゆったり空間”



全長4550
室内長2610
全高1590
アイポイント高さ1215
[オデッセイ-105 / イブサム-95]
ホイールベース2720
ヒップポイント高さ575
[オデッセイ-105 / イブサム-95]

1～2列前後席間隔980
[オデッセイ-30 / イブサム-30]
2列目レググルーム1018
[オデッセイ+20 / イブサム+40]
室内高1310
[オデッセイ+95 / イブサム+90]
2～3列前後席間隔730
[イブサム+15]

3列目レググルーム790
[イブサム+45]
3列目ヘッドクリアランス15
[イブサム+5]
5名乗車時荷室長1060
[イブサム+140]

SCOOOP 13

簡単操作と多用途性にこだわった「クイックシートアレンジ」

●5:5左右二分割&ロングスライドできるセカンドシート



●サードシートはクイック操作で荷室に早変わり



▲リクライニング&フォールダウン機構も左右独立。いろいろなアレンジが楽しめる。

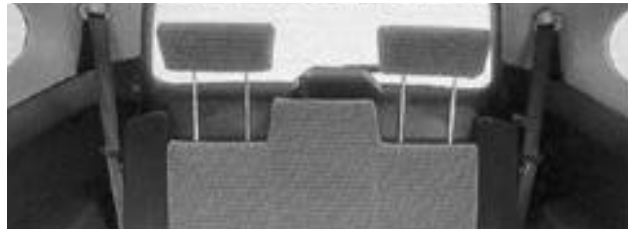


▲シートバックにはダブルヒンジ機構を採用してフラットに折りたたむことができる。

3分割フォールダウン



▲3分割フォールダウンと左右5:5分割スライドを駆使すると、便利に効率のいいアレンジが可能。



▲サードシートのピロー(ヘッドレスト)はビルトイン式。収納すると後方視界も確保できる。



3列目シート専用エアコン装着車も設定。上級ミニバンを上回る高性能がウリ。

●カンタン操作で便利にアレンジ!

■3列乗車も余裕



■たくさんの荷物もすっぱり積める



■家族旅行は広ひろ快適



■2カップルの旅行でも荷物がたっぷり



■休憩は足を伸ばしてのんびり



■人と荷物に合わせてシートアレンジ



カ

ライ・スクープで、ストリームのデザインやライバル車比較、そして走りなどについてお伝えした。が、やはりミニバンのハイライトと言えは空間設計。そしてシートアレンジの多様さ、便利さを抜きには語れない。

ライバル車比較のところでも触れていたが、ストリームの大きな特長として、低車高・乗用ミニバンでは破格の居住空間を確保している点があげられる。

基本設計を共有するシビックと同じく、新技術やアイデアによってメカニズム部分が占有するスペースを極限まで切り詰め、ムダなスペースのない車体設計。そして、上げ底ではない真のフルフラットフロア。これが、ライバルを出し抜く広さを実現した「ヒューマンパッケージ」の基礎になっている。

スタイリッシュと謳うボディはライバル車ほど背が高くないが、それでいてオデッセイをも超える快適空間としているのは驚くばかりだ。さらに、ミニバンでコレ抜きには語れない、シートアレンジ。ストリームは「簡単操作」「多用途性」にこだわったという。

とくにサードシートについては、ビデオ画像のところでも紹介しているが、切り替え操作のすばやさがウリだ。フル乗車のミニバンの用途と後部を荷室として使うワゴンの用途。このふたつの用途を切り替えるのに要する時間は、たったの10秒。これをすばやく行うためには、当然操作が簡単でなくてはならない。

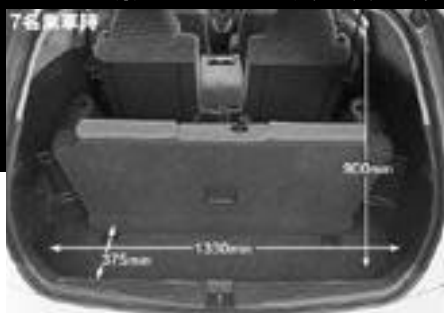
空間が広いからこそ、用途に合わせた最適な使い方が選べる。これがストリームの太鼓判。などところだと言えるだろう。

ワゴンとしての使い勝手もバツゲン

スマート・カーゴルーム

太鼓判

●みんなで乗ってもゴルフバッグが入っちゃう



▲7名乗車時でも内寸幅を広くとっているのが、ゴルフバッグも収納可能。この状態でもかなり使えるラゲッジルームだ。

●幼児用自転車も載せられるワゴンモード



▲サードシートをたたんだ5名乗車の状態なら、幼児用自転車がそのまま搭載できる。

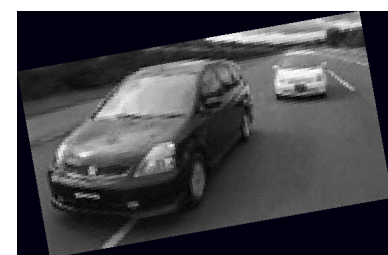
●カップルならマウンテンバイクも積載可能



▲2名乗車でセカンドシートまでたたむと、奥行き1780mmの広大なスペースに。26インチマウンテンバイクが2台搭載可能。

3 列シートをフルに使ったミニバン本来の使い方が、サードシートをたたんだステーションワゴンの使い方。そして、2名乗車でラゲッジをフル活用する使い方。いろいろなシーンに応じて使い分けられるのが、3列シート・ミニバンのいいところだ。

ストリームのラゲッジルームは、ホイールハウスの張り出しを最小限に抑え（これはよく聞くフレーズではあるが、最大幅部分で1330mm、最小幅部分で1080mmを確保）、この手のクルマは、フル乗車時にはラゲッジルームがほとんど使えない、というのが半ば常識。が、ストリームはサードシート使用時でも、ゴルフバッグが収納できるという。サードシート収納時のフロアは完全フラット、セカンドシートを折りたたんだ場合にもわずかな段差で、荷物が積みやすく使い勝手のいいラゲッジルームだ。



▲テールゲートは軽い力でラクに開閉できる。ゲート高さは立ったままでも作業しやすく、ドアハンドルを内蔵で小柄な人でも開閉しやすい。

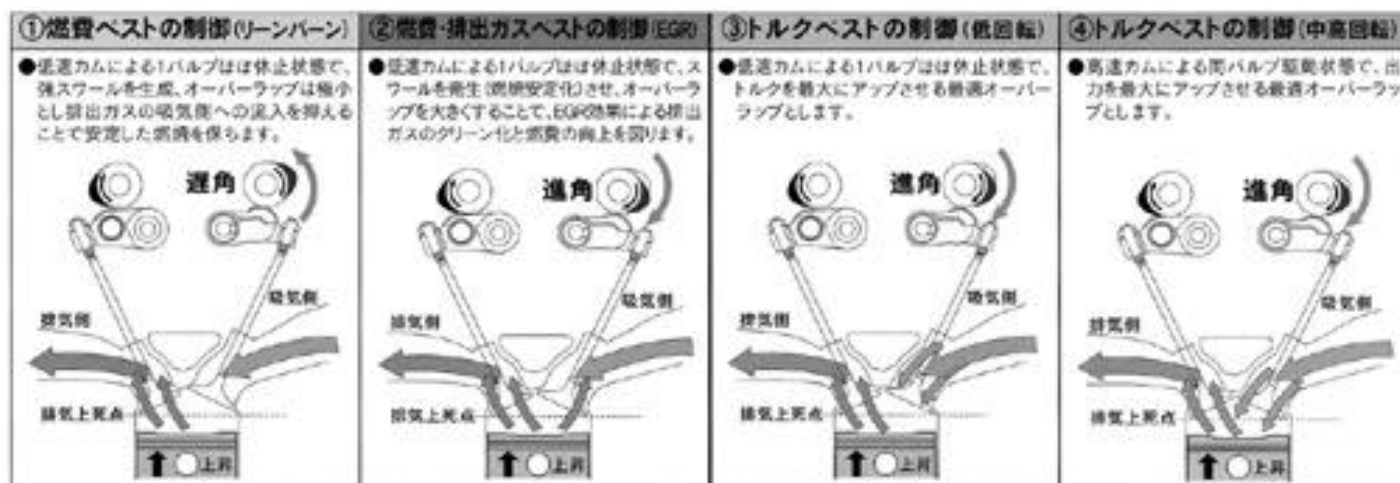


トルクフル&低燃費な「i-VTEC」

パワフル&スムーズな次世代ユニット 「2 i-VTEC+5AT-Sマチック」

●i-VTEC=VTEC+VTCでこんな制御を行う

2リットルエンジン搭載





■ストリームのスペックと主な装備(編集部予想)

[illegible]

■i-VTECエンジンのスペック（編集部予想）

タイプ・駆動方式	iL/iS-FF	iL/iS-4WD
トランスミッション	5AT-Sマチック	4AT-Sマチック
最高出力 kW[PS]/rpm	113[154]/6500	116[158]/6500
最大トルク N・m[kg・m]/rpm	186[19.0]/4000	190[19.4]/4000
10・15モード走行燃費 km/ℓ	14.2(iL) 13.6(iS)	13.0



▲新開発AT-Sマチックは2 エンジン車に搭載。スムーズな加速性能と、高速巡航での燃費向上を図るオールニューの5速ATが基本。これに、シフト操作が楽しめるシケンシャルモード、Sマチックを搭載した。



●インパネシフト 5AT-Sマチックの シフトゲート配置

▲Dレンジ直下にD3レンジを設定。強力なエンジンブレーキを必要とする場合の操作性を向上している。

レンジ	変速パターン	設定の目的
D	1-2-3-4-5の自動変速	通常走行
D3	1-2-3の自動変速	山道走行
M	5 5速固定	SATを7kmに配る
	4 4速固定	シーケンシャル
	3 3速固定	走行
	2 2速固定 (2速発進可)	雪道発進
	1 1速固定	急降坂

ス

ス

2 エンジンを初めて搭載。さまざまな新技術・新機軸をふんだんに投入し、大幅なコンパクト化に成功した省スペース型ユニットだ。ほかに、静粛性や燃費に優れるなど特長も多いが、ストリームのパッケージングは、このエンジンのコンパクト化に負うところが大きい。

このエンジンに投入された新技術をちよつとあげてみよう。まず、コンパクト化には、サイレント・カムチェーン駆動、サーペンタイン補機駆動、下置き二次バランス、高剛性シリンドリーブロックなどがある。また、高出力・高トルク化には、可変スイングマニホールド、後方排気シス

テムなどが寄与している。やはり新開発のSマチック付き5速AATも、エンジンとのコンビネーションでかなりコンパクト化されている。外寸では、1段増えているにもかかわらず、4速AATよりも小さく仕上げられているほど。

また、この次世代エンジンは従来のVTEC機構にVTC(可変カム位相制御)をプラスした「iVTEC」を搭載。ハイパワー、低燃費、低排出ガスというまったく異なる要求特性を高度に達成する、というホンダ独自の高知能化機構だ。

5AT Sマチックは、ご存じのとおりシイケンシャルシフトを備え、スポーティなストリムの走りをもより楽しくしてくれるアイテムだ。